

# アドバンスト施設による 次世代介護機器導入事例

今ある未来の、その先へ。



TSUKUI

ツクイ・サンシャイン足立

# 本日お話しする内容

---

- 施設概要
- 導入した次世代介護機器
- 導入の手順
- 取組内容（手順1～6）
- 取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと
- 次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

# 施設概要

運営法人	株式会社 ツクイ
施設名	ツクイ・サンシャイン足立
所在地	東京都足立区花畑6-10-3
定員	54名
平均介護度	3.11（令和7年4月度）
職員数	34名
特徴	ツクイ・サンシャイン足立は周囲に公園や小学校などがあり活気がありながらも穏やかな時間をすごせる立地となっています。認知症のお客様への対応に強みを持ちスタッフはお客様の夢ややりたい事の実現をできるように日々取り組んでいます。



# 導入した次世代介護機器

メーカー名	Z-Works
機器名	介護支援システム「ライブコネクト」
台数	54台



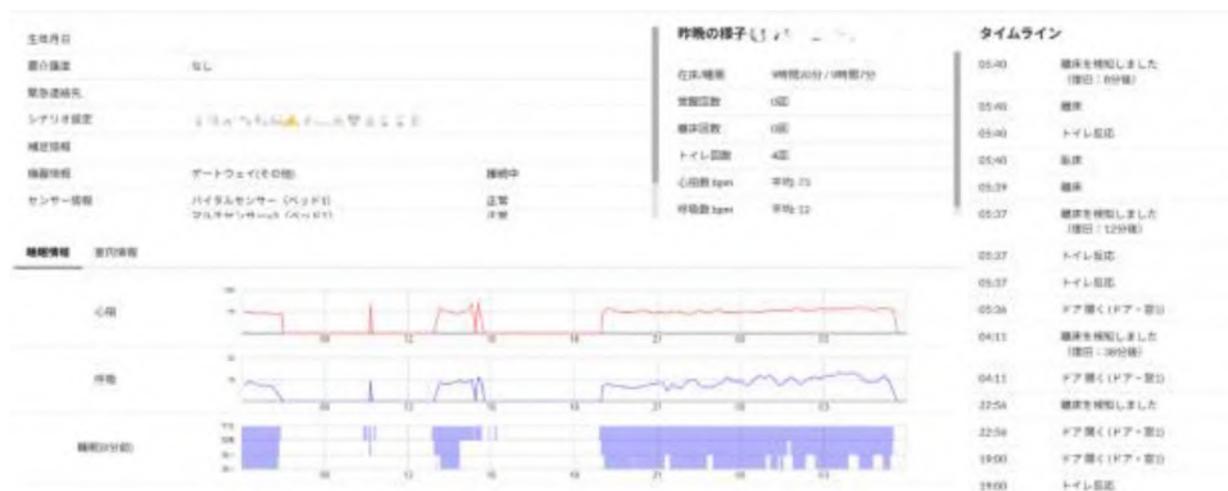
- ライブコネクトは離床センサーやドアセンサー、バイタルセンサーからなる介護支援システムです

- 各センサーにシナリオ設定ができ、職員のもっているスマートフォンと介護ステーションへコールが届きます



# 導入した次世代介護機器

- シナリオには離床やトイレ利用の通知の他に居室内の温度等に関するものも設定できるため熱中症の予防などにも利用できます。  
また、バイタルセンサーにより夜間帯の睡眠状態や心拍などのデータも記録されます。



# 導入の手順

## 導入の6つの手順

取組期間：約4カ月

取組実施者：約7名

手順 1	改善活動の準備をしよう	<ul style="list-style-type: none"><li>● 情報収集</li><li>● 取組に対する組織全体での合意形成</li><li>● 実施体制の整備</li></ul>
手順 2	現場の課題を 見える化しよう	<ul style="list-style-type: none"><li>● 課題の見える化</li></ul>
手順 3	実行計画を 立てよう	<ul style="list-style-type: none"><li>● 導入計画づくり</li><li>● 対象利用者の選定</li></ul>
手順 4	改善活動に 取り組もう	<ul style="list-style-type: none"><li>● 導入準備</li><li>● 次世代介護機器の活用</li><li>● 小さな成功事例</li></ul>
手順 5	改善活動を 振り返ろう	<ul style="list-style-type: none"><li>● 効果検証</li><li>● 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析</li></ul>
手順 6	実行計画を 練り直そう	<ul style="list-style-type: none"><li>● 実行計画の練り直し</li></ul>

出典：「介護ロボットのパッケージ導入モデル（改訂版）」をもとに作成

# 手順 1 : 改善活動の準備をしよう

取組期間 : 2月26日～3月12日

## 手順 1

- 情報収集
- 取組に対する組織全体での合意形成
- 実施体制の整備

### ● 情報収集

- 厚生労働省主催介護現場における生産性向上セミナー
- 同法人内他施設での導入機器へのヒアリング

### ● 取組に対する組織全体での合意形成

- 機器メーカープロジェクトマネージャー、本社担当者、施設職員でのキックオフミーティングを開催。機器の機能や導入メリットなどを全体での会議などで共有しながら合意形成を図る

### ● 実施体制の整備

	役職	チーム内での役割
1	施設長	統括責任者 メーカー様対応等全般
2	生活相談員係長	リーダー 倫理面、データ収集等
3	機能訓練副主任	サブリーダー お客様選定、アラート設定
4	介護副主任	サブリーダー 機器運用状況全般確認
5	看護主任	バイタル、睡眠状況等医療連携
6	介護職員	備品管理、トラブル対応、使用方法普及促進

# 手順 2 : 現場の課題を見える化しよう

取組期間 : 2月25日~3月12日

手順  
2

● 課題の見える化

## ● 課題の見える化

### 原因

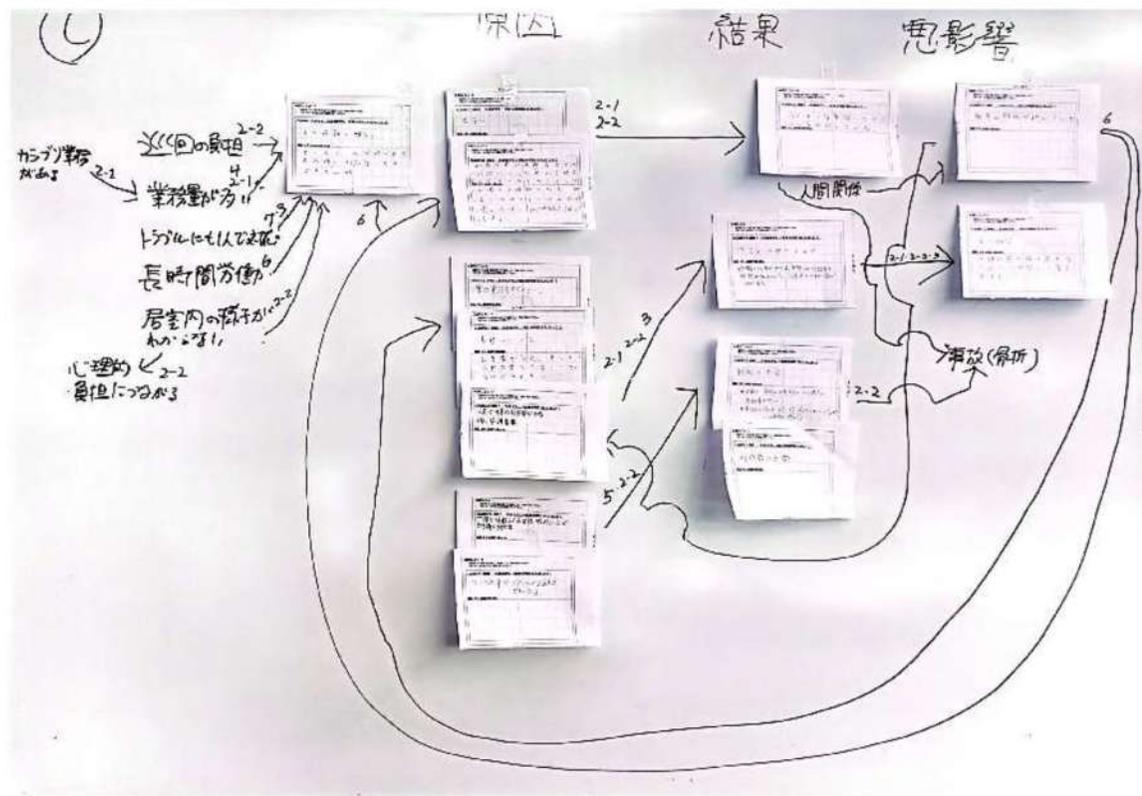
人員不足の為、十分に見守りなどができない。  
業務負担が多い

### 結果

ヒヤリハット、事故の増加  
職員の心身の負担増加

### 悪影響

お客様のケガや入院が増える。  
職員の離職増加



# 手順 3 : 実行計画を立てよう

取組期間 : 3月12日～3月19日

## 手順 3

- 導入計画づくり
- 対象利用者の選定

### ● 導入計画づくり

#### □ 課題解決に向けた道筋

人員不足と業務負担によって見守り等の業務に手が回らない状況にありヒヤリハットや事故が頻発している。また、身体的精神的な負担により職員の離職につながってしまっている。見守り機器の導入で居室内でのお客様の様子を確認できるようになり、居室巡回などの業務の軽減へ繋げヒヤリハットや事故の減少、離職の防止に取り組んでいく

#### □ 導入する次世代介護機器

- 介護支援システム「ライブコネクト」

#### □ 成果指標

- 夜間訪室回数と職員歩数
- 夜勤者のストレス度合いなどをアンケート
- ヒヤリハットと事故の件数

# 手順 3：実行計画を立てよう

取組期間：3月12日～3月19日

## 手順 3

- 導入計画づくり
- 対象利用者の選定

### ● 対象利用者の選定

#### □ 選定した利用者

- ・ 現在、センサーマットを使用しているお客様
- ・ 夜間帯のトイレ回数が多いお客様、またナースコール後に待てないお客様

#### □ 選定理由

- ・ 転倒リスクの高いお客様を中心に選定

#### □ 選定する際に留意した点

- ・ ヒヤリハット事故数の減少を目標に、転倒リスクの高いお客様を職員間で話し合い選定。
- ・ 夜間帯の状況把握から始めて、夜間定時巡回の回数減につながるようにする。

# 手順 4 : 改善活動に取り組もう

取組期間 : 3月19日～4月30日

## 手順 4

- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな成功事例

### ● 導入準備

#### □ 実施内容

##### ①プロジェクトメンバーの役割分担を決定

- 施設全体の取り組みとする為に全ての課が関わってもらえるようにメンバーを選定した

##### ②マニュアル配布

- 内容がわかりやすいように写真などを使用しシンプルに作成
- 動画も用意し視聴できるようにした

##### ③メーカー担当者との連携

- カスタマーセンターだけでなく担当者直通の連絡先を共有させてもらった

##### ④使用方法とトラブル対応の周知

- トラブル時、施設内の報告経路を確定し情報を集約するようにした
- トラブルの内容と対応を、随時情報共有した

#### □ 導入にあたって大切にしたいポイント

- シナリオ設定及びメーカー連絡の職員を限定し指示等の行き違い等が起きないようにした
- 職員が理解しやすいように何度も繰り返し説明と申し送りを実施した

# 手順4：改善活動に取り組もう

取組期間：3月19日～4月30日

## 手順4

- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな成功事例

### ● 小さな成功事例の共有

#### □ 職員の声

夜間定時巡回の回数が減り他の業務に取り組めるようになった。

状況確認の為だけの訪室が減ったことで身体的に楽になった。

通知音の変更で何のコールかが明確になり適切に対応できるようになった。

#### □ 利用者の様子、変化

夜、職員さんが来て起きちゃうことが減ったよ。 ※お客様より

夜間帯の睡眠状態をデータで見える化でき医療機関との連携に役立っている。

#### □ 成功事例の共有方法

- フロア会議や日常の申し送りに実施。

# 手順 5 : 改善活動を振り返ろう

取組期間 : 4月30日～5月15日

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

## ● 設定した成果指標における効果検証

### □ 訪室回数 夜勤職員のカウントにて効果検証

- ・ 導入前 : 175回～199回 導入後 : 45回～69回

定時巡回がなくなったことにより訪室回数の大幅な減少がみられる

### □ 職員歩数 iPhoneの歩数計を使用し効果検証

- ・ 導入前 : 平均歩数12038歩 導入後 : 平均歩数8589歩

定時巡回がなくなったことにより訪室回数同様減少している

# 手順 5 : 改善活動を振り返ろう

取組期間 : 4月30日～5月15日

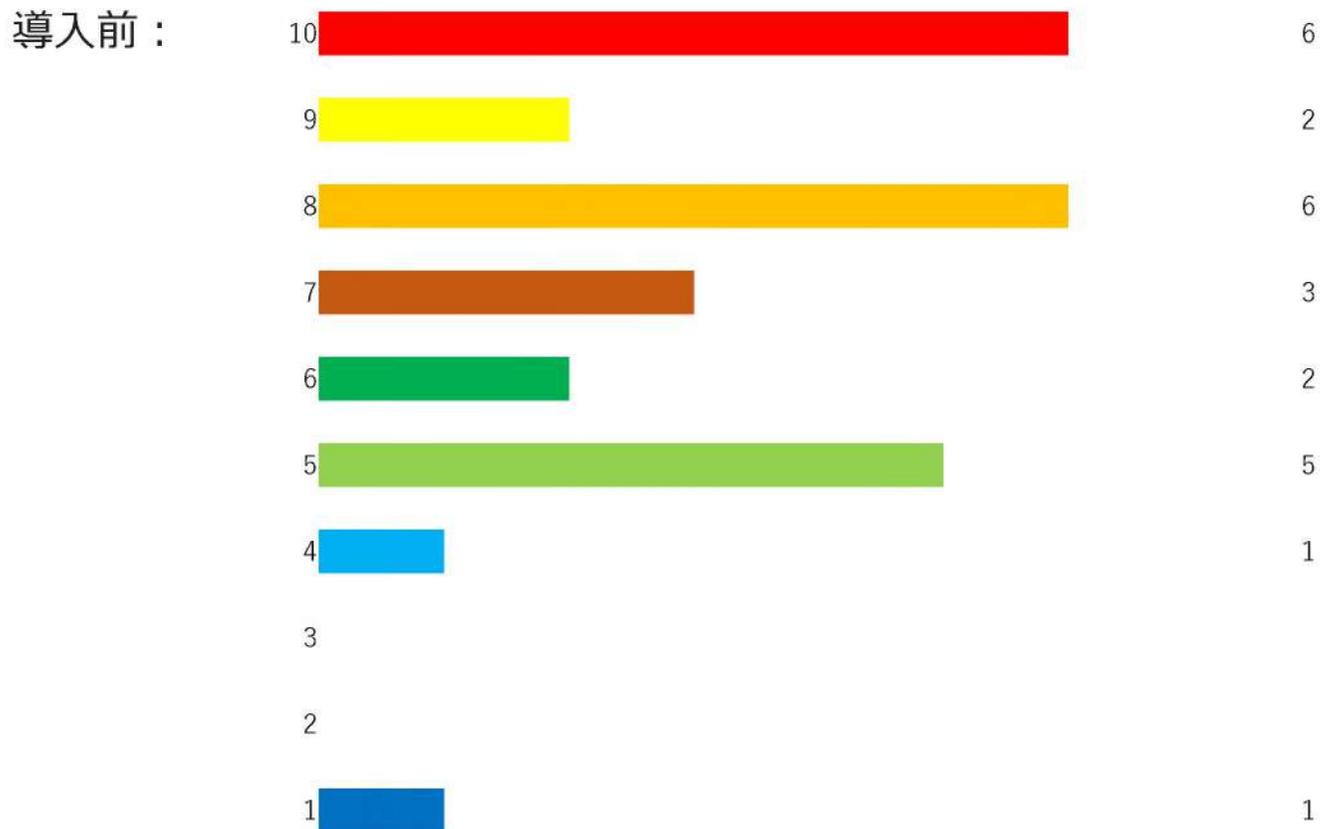
手順  
5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

## ● 設定した成果指標における効果検証

### □ 夜勤職員のストレス度合い アンケートにて効果検証

Q. 夜勤のストレスを数値で表した場合を教えてください（10が非常に疲れた）

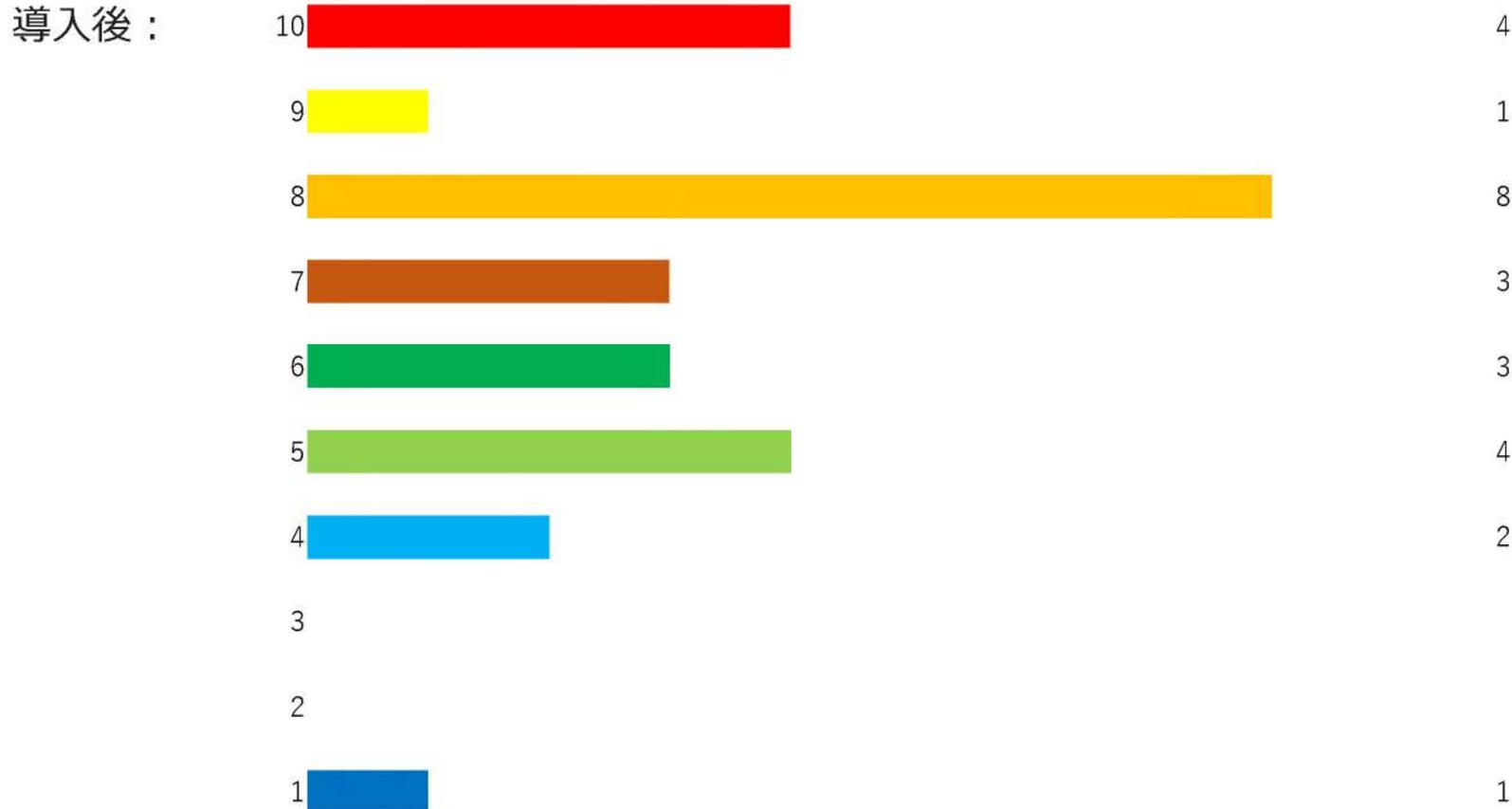


# 手順 5 : 改善活動を振り返ろう

取組期間 : 4月30日～5月15日

## 手順 5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析



導入前と導入後のデータを比べてストレス数値10と9が若干減少し8が増加している。その部分では軽微ではあるがストレスの減少がみられた。その反面、5が減り6が増えている部分もある。

# 手順 5 : 改善活動を振り返ろう

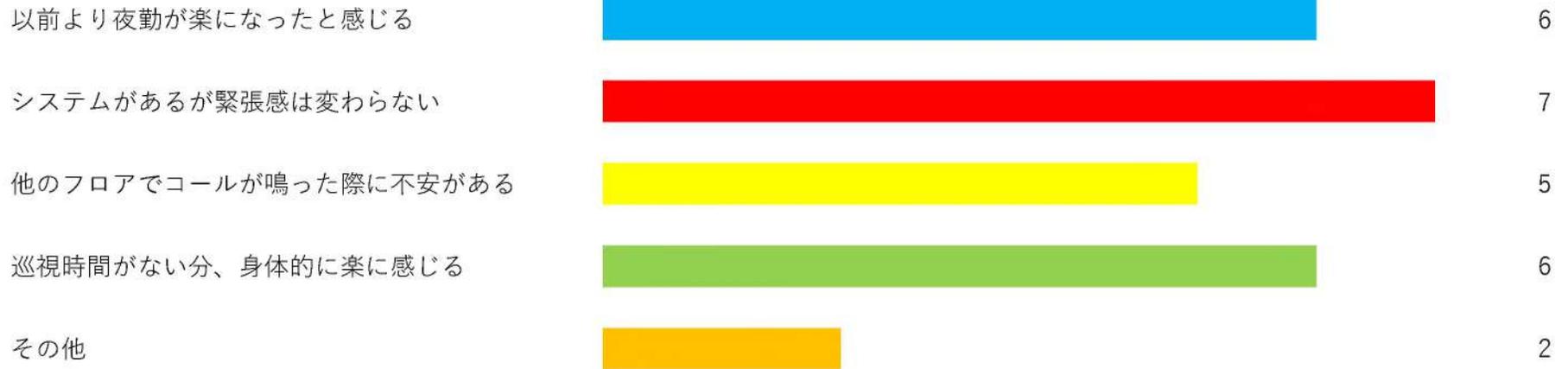
取組期間 : 4月30日～5月15日

手順  
5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

## ● 設定した成果指標における効果検証

- Q. 見守りシステムを導入しての感想をお聞かせください



身体的な負担の軽減はみられているが、コールが重なる等の事象が発生する為精神的な緊張などの負担の軽減にはつながっていない部分が見られている。

また、その他の内容としては

- ・誤作動が多い
- ・センサーによるコール対応をしている為、訪室回数が逆に増えた気がするとの意見があった。



# 手順 5 : 改善活動を振り返ろう

取組期間 : 4月30日～5月15日

手順  
5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

## ● 取組全体を通して上手くいった、いかなかった点の整理・分析

### □ 上手くいった点・その要因

- 定時巡回がなくなり訪室回数、歩数共に減少がみられ身体的な負担軽減につながっている。時間的な余裕もでき業務ペース等のコントロールがしやすくなった。
- 全室にライブコネクトを導入した事により新たにセンサーマットの購入する必要がなくなった。また、センサーマットの撤去をすることができた。
- ライブコネクトはセンサーマットより目立たず設置時のお客様のストレスの軽減、外してしまうなどの行為もなくなった。
- 夜間帯の睡眠状態の把握ができるようになり、エアーマットを導入する等の対応変化後に効果検証ができる様になった。
- サイネージ画面で空室や入院、体験入居等の最新の居室状況が可視化できるようになった。

# 手順 5 : 改善活動を振り返ろう

取組期間 : 4月30日～5月15日

## 手順 5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

### ● 取組全体を通して上手くいった、いかなかった点の整理・分析

#### □ 上手くいかなかった点・その要因

- ライブコネクトの操作が職員によってバラツキがでてしまっている。  
⇒機器導入の意義や有用性を感じてもらえていない為  
操作が業務負担になると考えられている。  
また、なじみのないIT機器操作への恐怖感が払しょくできていない
- 事故防止についての活用がうまくいっていない  
⇒適切な設定や使用について未だ手探りの状況にある。
- 夜勤職員の精神的な負担の軽減に繋がっていない部分がある  
⇒同時にセンサーが作動する事や誤作動などもみられるため精神的な負担軽減に  
繋がっていない。  
全居室に入っている為、設定によってはセンサー作動の頻発を招き  
逆に負担増になってしまう場合もある。
- センサー設置による苦情がお客様よりでた  
⇒お客様の状態に合わせた設置ではなく一律で設置してしまった。

# 手順 6 : 実行計画を練り直そう

取組期間 : 5月15日～5月22日

## ● 取組(全体)を通して見直したこと

- ライブコネクトの操作が職員によってバラツキがある  
⇒夕礼時等の日々の情報共有ができる時間に、導入による負担軽減の情報共有をおこない前向きな情報に接する機会を増やす。

会議の際には導入や施設全体で取り組んでいく事の意義について施設長より話してもらう。  
⇒操作に慣れていない職員はマニュアルや動画を見てもらうではなく実際に一緒に操作をしていくなどの対応をする。

⇒トラブル時にはできる限りすぐに対応しトラブル、対応共に情報共有をする。

- 事故防止についての活用がうまくいっていない  
⇒導入チーム以外の職員にも積極的に意見を聞き試行錯誤を繰り返していく。  
事故改善のミーティング時にアラートの検討を必須とする。

# 手順 6 : 実行計画を練り直そう

取組期間 : 5月15日～5月22日

## ● 取組(全体)を通して見直したこと

- 夜勤職員の精神的な負担の軽減に繋がっていない部分がある  
⇒お客様の状態の共有をしっかりとおこない、設定を追加するだけでなく  
外す事も検討をする時間を設け過剰なアラート設定にならないように取り組む。  
  
⇒アラート設定の流れや設定周知までを統一し  
「いつの間にか設定されていた」や「なんで設定されたかわからない」という部分を解消する。  
  
⇒誤作動が起きないようにメーカー担当者とのコミュニケーションをしっかりと  
都度、調整をしてもらう。
- センサー設置による苦情がお客様よりでた  
⇒再度、センサー設置についての説明をお客様に実施  
  
⇒アセスメント実施時にはセンサー位置の検討を項目に追加  
お客様の急激なADL等の変化があった場合は都度変更

## 取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと

---

- 施設全体で意識をひとつにして物事に取り組むことの難しさを感じました。当たり前のことだが忘れがちになってしまう、職員一人一人に意見や考え方があり違いもあるという事を再度、認識しました。  
お互いに認め合って進めていく事が重要だと思いました。
- 情報共有、使用進捗の足並みを揃える部分も大変でした。  
職員によって情報の捉え方が違ったり、使いこなせている職員はどんどん使用するが、苦手意識をもっている職員はそうはいかないのでバランスをとっていき事も意識しました。
- 初めての機器なので試してみる事を大事にしました。  
出たアイデアや意見は、まず試してみる。結果を共有しその後も意見を出し合っていくようにしました。

## 次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

---

- 次世代機器の導入により、従来はマンパワーで対応していた業務の一端を機器に任せることにより、職員の負担軽減に繋がると思います。導入機器選定段階から、現場での困り事を抽出する等、施設全体で取り組むことにより導入への一体感が生まれ、よりその効果が上がるのではないかと考えます。
- 機器の導入過程では大変なこともあります。その過程で職員間のコミュニケーションや協力体制の構築などを見直すきっかけにもなり副次的に得るものも多かったです。

## 次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

---

- 今後は導入したライブコネクトをより活用できるように施設内、メーカー、他の導入施設とも情報、意見交換をしていきたいです。  
また、現場からの要望意見があれば他の機器の導入を検討していきたいです。
- ライブコネクトの導入により業務に変化が生まれているので全体的な業務の見直しや改善に繋がっていきたいと考えています。